

翔べ！松中生

令和3年度 第4号 7月1日発行

「松中 ONE TEAM」

校長 齋藤 明

6月17日の陸上競技部を皮切りに学校総合体育大会地区予選会が開催されました。昨年度は中止となり、卒業した先輩方は、3年間の部活動の成果を発揮する場もなく、とても悔しい思いをしたことでしょう。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、参加生徒数の制限や保護者の応援の有無など、各専門部で大会規模や会場により違いはあるものの、県大会や関東・全国大会に続く道が開けたことをとても嬉しく思います。

予選会も7月1日のバドミントン部、4日の卓球部ダブルスでの代表決定戦で地区予選は終了しますが、現在のところ陸上競技部、バドミントン部女子団体で県大会の出場権を得ることができました。また、県大会までは届きませんでした。勝利を目指し健闘する生徒の姿は、とても真剣で格好良く、みんな勝たせてあげたいと胸が熱くなりました。大会会場で沢山の学校が、勝った負けたで一喜一憂する中、プロ野球、東北楽天ゴールデンイーグルスの名誉監督、故 野村克也氏の座右の銘として話題になった。「**勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし**」（意味：勝負は時の運とはいうものの、偶然に勝つことはあっても、偶然に負けることはない。失敗の裏には、必ず落ち度があるはずなのだ。）という言葉思い出しました。どの会場の試合にも、どちらにも良い流れや悪い流れがあり、たまたま運が良かったような場面なども確かにありました。プレーを見ながらそれぞれの場面で、「あの選手は、運を味方にするような徳（良いこと）を積んでいたのかもしれないなあ。」「あのチームは、流れが来るような準備と努力をしていたのかもしれないなあ。」などと考えていました。

大会である以上、勝ち負けはあります。でも勝ったから成功で負けたから失敗と言うわけではありません。勝ち負け以上に大切なものがあります。3年生にとっては最後の公式戦でした。最上級生として、チームの要としての役割、後輩の手本となる姿は見せられたでしょうか？自分やチームの3年間の成果は自分で判断するものです。そして一番大事なことは、自分自身「やりきった。」と思えるかどうかです。試合を振り返ると様々な場面で、練習の成果であろう輝くプレーやチーム一丸となり称え合う瞬間が沢山ありました。今回の大会を通じて、3年生には、それぞれが「何を感じ、何を学び」学んだことをどう生かしていくのが大切になります。しっかり振り返って、考えてみてください。

そして1、2年生は、3年生から学んだ良き伝統をしっかりと引き継ぎ、秋の新人戦に向けて新チームとしての準備を頑張ってください。

今回は、大会前に全校生徒での部活動壮行会を生徒会のみなさんが計画してくれました。お陰で各部ごとに気持ちを一つにして大会に臨むことができました。ありがとうございました。また、個人的に激励の言葉や試合後に思いやりの言葉をかけてくれた仲間も多くいたと思います。最後に、大会中に学校に残り、授業をしながら大会出場のみなさんを陰ながら応援して下さった生徒、先生方全員が松中応援団であったことに感謝いたします。ありがとうございました。いつでも松中生は、心はひとつ「ONE TEAM」ですね。

